

文教と歴史と賑わいの町

三島学区

MISHIMA



三島っ子メッセージ 6年 林 木葉

三島小学校では、こいのぼり集会で柏餅、ひな祭り集会でいが饅頭を食べます。部活動の大会では、励まし合い団結し合って、力を出し切ることが得意です。

廊下では、元気な挨拶の声が飛び交っています。そんな学校が大好きです。



竜中生メッセージ 3年 谷口 駿

僕が住む三島学区は、夏祭りなどの地域のイベントが盛んです。代々続いている伝統的な行事を今後も続けていくために、地域の人々の交流を通して多くの人と関わり、住民同士のつながりを大切にしていきたいです。



新世紀岡崎に伝えたいメッセージ

竜中生メッセージ 3年 深澤 満理奈

三島学区には地域パトロールの方がいて、私たちの安全を守ってくださっています。そのおかげで小中学生も安心して登下校をすることができます。住民同士で地域の安全を守るこの活動を、ずっと続けていきたいです。



三島っ子メッセージ 6年 竹澤 諒

ぼくにとって、学区の自慢といえば、学校のすぐ隣の自然科学研究機構です。年に一度の「一般公開」を楽しみにしています。実験器具に触れたり、実験動物を見たりするなど、貴重な体験ができるので、毎年行きます。



※学年は平成28年度時点



編集後記

三島学区まちものがたり作成委員会は、15名の委員が5つの分野に分かれ、それぞれが表紙の部・なりたちの部・マップの部・特集の部・裏表紙の部いずれかを担当し、執筆作業を進めました。原案の作成には多忙な中にもかかわらず、時間を工夫して精力的に資料の収集、現地調査や聞き取り調査に携わり、学区の歴史と特色を浮き彫りにしてきました。そして、キャッチコピー「文教と歴史と賑わいの町」に相応しい内容になるよう、説明文、写真、レイアウトなどアイディアを出し合い、8回の協議を重ね、魅力ある仕上がりを目指し取り組んできました。



〔作成委員会〕 大島康司/仲井憲一郎/中嶋俊之/加藤政宏/岡田孝/荻野享/加納重幸/米津眞/伊藤榮一/村瀬浩之/神谷明/富田征也/吉田章二/小田喜代美/酒井義和

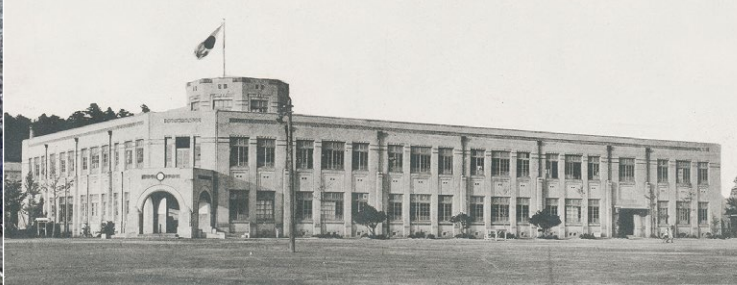
〔協力〕 岡崎市立三島小学校/岡崎市立竜海中学校/愛知県立岡崎高等学校/自然科学研究機構/愛知県立岡崎盲学校

〔参考資料〕 新編岡崎市史/岡崎市制70周年記念事業記録誌/岡崎市戦災復興誌/岡崎竜海風土記/ふるさとの思い出写真集明治大正昭和岡崎/写真でつづる明治大正昭和の物語岡崎あれこれ

〔表紙写真〕 毎年5月に三島小で行われる「こいのぼり集会」の様子です



1 殿橋を通る市内電車と三島の丘を望む（名鉄資料館所蔵）



2 東洋一といわれた三島尋常高等小学校



3 愛知学芸大学全景



4 完成した東岡崎駅



5 百貨店「エコー」（出典：新編岡崎市史）

三島学区 まちのなりたち

岡崎馬車鉄道の岡崎停車場―殿橋間が開通…1

三島村が岡崎町に合併

愛知電気鉄道（現名鉄）の神宮前―東岡崎間が開通（1927年（昭和2））には東岡崎―豊橋間が開通

愛知県岡崎中学校（現県立岡崎高等学校）が戸崎町から現在地に移転

三島尋常高等小学校（現三島小学校）が三島の丘（明大寺町、現自然科学研究機構）に移転…2

吹矢橋が木造で完成

岡崎信用金庫本店が現在地へ移転

明代橋が鉄筋コンクリート道路橋として完成

岡崎空襲 学区内で900戸を超す被害を被る

東岡崎駅前から電車通りに至る両側に青空市ができる

新学制により市立竜海中学校が元三島小学校を借用して開校

明德保育園が開園

愛知学芸大学岡崎分校が三島の丘に開校…3
（1951年（昭和26））に大学本部が明大寺校舎へ移転

市立竜海中学校が現在地に新築移転

県立岡崎盲学校が現在地に新築移転

県西三河事務所が現在地に設置

市立三島小学校が現在地に新築移転

東岡崎駅舎改築完工

バスターミナルが設置され、「岡ビル百貨店」が開店…4

名鉄岡崎市内線（チンチン電車）廃止

西三河初の百貨店「エコー」が明大寺本町に開店…5

西三河初のボウリング場「岡崎スポーツセンター」が上明大寺町にオープン

東岡崎駅前地下道が完成

愛知教育大学（愛知学芸大学から改称）が刈谷市へ移転

国立分子科学研究所が三島の丘（愛知教育大学跡地）に創設

竜美丘会館が開館（1982年（昭和57））には本館棟が開館

三島学区市民ホームが開館

東岡崎駅地下改札口工事が完成

南北連絡通路ができて
便利になりました

三島学区こどもの家が開館

東岡崎駅南交通広場が完成

東岡崎駅西線路沿いの屋台街が姿を消す…6

東岡崎駅の橋上駅舎とエレベーターが供用開始

東岡崎駅の橋上東改札が供用開始

岡崎始まりの地

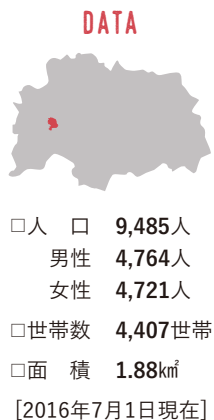
室町時代の永享年間（1429、41年）に西郷弾正左衛門が明大寺に屋敷城を築造しました。この城は、三島の丘の北端の川に臨んだ小平地に位置していたため、岡の先、岡崎という地名が生まれます。この岡崎Ⅱ明大寺は、矢作川渡船場として発展し、城の周辺には集落が形成され寺（成就院など）も建てられました。その後、松平清康公が岡崎城主となり、本拠を現岡崎城の地に移したため、地名も北へ移りましたが、岡崎という地名は、三島学区に起源をもつのです。

文教の丘

三島学区には、三島小学校、竜海中学校に加え、全国に名高い岡崎高等学校、世界最先端の研究が行われている自然科学研究機構があります。大正末期から昭和初期にかけて三島の丘に岡崎中学校や三島尋常高等小学校が移転してきます。戦後には、愛知学芸大学（現愛知教育大学）が設置され、多くの教員を輩出しました。その後、大学は刈谷市に統合移転しましたが、当地には、分子科学研究所を皮切りに、基礎生物学研究所、生理学研究所などが創設され、自然科学研究機構として現在に至っています。

岡崎の玄関口としての賑わい

東岡崎駅を有する当学区は、岡崎の玄関口としての賑わいの地です。戦後、いち早く東岡崎駅前から電車通りに至る道の両側に青空市ができ、その後、商店街が拡充されました。東岡崎駅が改築され、「岡ビル百貨店」が開店すると、商店街はアーケードを設置して発展を目指します。昭和30年代末には、西三河初の百貨店「エコー」が、次いでスーパーマーケット「ほていや」が進出し、賑わいを見せました。現在は、飲食店が並ぶ繁華街となっています。また、東岡崎駅周辺地区整備事業が進行中で、さらなる発展が期待されています。



6 線路沿いにあった屋台街の様子。夜になると多くの人で賑わいを見せた

三島学区

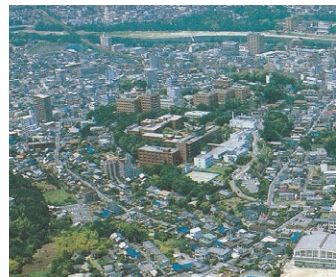
文教と歴史と
賑わいの町

空青く、明大寺の丘蒼く、菅生の流れ清い、恵まれた自然に囲まれた町。
悠久の時を経て、数多の魅力ある歴史と文化を育み、伝えてきた風格
のある町。

いま、三島の町は「乙川リバーフロント地区整備計画」や「東岡崎駅北
口駅前広場整備計画」が複合的に推進整備されつつあり、岡崎の表玄関
として新たな風が吹き始めています。



六所神社
上/齊明天皇勅願により創建。徳川家の産土神(写真提供:岡崎市)
下/平成18年放映のNHK連続テレビ小説「純情きらり」のロケ地になった



自然科学研究機構
1975年(昭和50)設立
ノーベル賞受賞者が研究に取り組んだ世界に誇る研究施設



A 岡崎市立三島小学校
左/1873年(明治6)3月創立 右/校門を入ってすぐの場所にある校歌碑



B 岡崎市立竜海中学校
左/1947年(昭和22)4月創立
右/竜中名物、天に昇る龍「九段ピラミッド」のお披露目



C 愛知県立岡崎高等学校
左/1896年(明治29)4月創立
右/愛知県立第二中学校出身の作家・尾崎士郎「人生劇場」の輝く石碑



F 龍海院
松平清康公創建。別名「是字寺」



G 安心院
明大寺の旧跡に建立された寺院



H 満性寺
1289(正応2)年、了専師創建



飲食店が立ち並び、大勢の人で賑わう
東岡崎駅前通り

文教の丘 三島

わたしたちの学区には、三島小学校、竜海中学校はもちろん、岡崎高校や、日本の自然科学研究の発展を担う自然科学研究機構があります。三島の丘は、日本の教育、学問を支える文教の丘です。

三島小学校

三島小学校は平成26年に開校140周年を迎えた、歴史ある学校です。大正14年に竣工された白亜の校舎は当時東洋一を誇ると賞賛されました。現在も、校長室に写真が飾られています。

昭和54年の全日本学校緑化コンクールで「日本一」を受賞しており、現在も児童たちは緑豊かな環境でのびのびと学んでいます。

また、部活動が盛んで、特に合唱部は県大会の常連として活躍中であり、平成25年には東海北陸ブロックの代表として「NHK全国学校音楽コンクール」の全国大会に出場しました。



たくさんの花と緑に囲まれた三島小

竜海中学校

昭和38年から「わかる学習指導」を継続的に研究し、昭和57年以降は毎年授業研

岡崎高等学校

平成28年に「開校120周年」を迎える長い歴史と伝統のある公立高校として全国屈指の進学実績を誇っています。平成14年SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定に伴って設立された「スーパーサイエンス部」は、化学班、生物班、物理班が研究活動で数々の賞を受賞、生物班は「Newton」に記事が掲載され、日本代表で出場した平成27年「世界大会（国際生物学オリンピック）」で見事に銀メダルを受賞しています。平成26年「科学の甲子園全国大会」に出場、数学部は、「日本数学コンクール論文賞」では金賞を受賞しています。

また、国内トップレベルの実績と世界的に高い知名度を誇る「コーラス部」は、指揮者の近藤恵子先生が40年以上率いて、世界合唱大会で5回連続で金メダルを、うち最優秀賞を3回受賞しています。



第3回世界合唱オリンピック(平成16年/ドイツ・ブレーメン)で歌声を披露するコーラス部

究協議会を行い、その成果や課題を市内外に発表しています。

また、昭和50年に全日本学校環境緑化コンクールで「日本一」を受賞しました。部活動では、バレーボール部男子が昭和59年に全国制覇を果たしました。近年でも吹奏楽部が平成26年全国大会で「文部科学大臣賞」を受賞しています。そのほか水泳部や駅伝部をはじめとした数多くの部活動が東海大会・全国大会において活躍しており、部活動強豪校としての伝統が引き継がれています。



学区敬老会で演奏を披露する竜中吹奏楽部

岡崎盲学校

明治36年に盲人佐竹政次郎氏が私財を投じ、康生に民家を借りて授業を開始しました。昭和22年に愛知県へ移管。現在、幼稚部・小学部・中学部・高等部(普通科・保健医療科・専攻科医療科)が設置されています。

自然科学研究機構

広大な愛知教育大学岡崎キャンパス跡地に建設された研究所です。学術研究を推進する中核的研究拠点である「基礎生物学研究所」、「生理学研究所」、「分子科学研究所」の三つから成る「大学共同利用機関法人」という組織が置かれています。

最先端の研究領域で必要とされる大型の実験施設や特殊な観測装置を機構が開発・整備することによって、国内外の研究者たちが効果的に先端的な共同研究ができる、日本が世界に誇るトップレベルの研究機関となっています。平成28年にノーベル医学・生理学賞を受賞した大隅良典氏は、平成8年から平成21年までの13年間、基礎生物学研究所に教授として在籍し、ノーベル賞の受賞理由となったオートファジー(自食作用)の研究をされました。

研究所は年に1回、施設を開放した一般公開イベントを開催しています。これは子どもたちの学習や地域住民との交流の場として、とても有意義な機会となっています。



一般公開イベントでは多くの人で賑わう

岡崎の玄関口

東岡崎駅の賑わいと整備事業

現在、東岡崎駅前北口は飲食店などが連なる繁華街として賑わっています。平成に入り、文教の丘側に東岡崎駅南口が開設され、北口とは地下通路で結ばれました。さらに、東岡崎駅橋上駅化工による東改札口設置により、バリアフリー化も完了しています。

今後は駅周辺地区整備事業が進展し、北口と南口を結ぶ自由通路や人々が集う交流拠点などが設置され、それに伴い駅ビルなども充実する計画です。そして、市民が誇れる「岡崎の玄関口」としてふさわしい東岡崎駅へと変貌していきます。



1 平成25年度に供用開始した東岡崎駅東改札口 2 現在の東岡崎駅前北口繁華街 3 東岡崎駅ペDESTリアンデッキイメージ(平成31年度供用開始予定)

乙川リバーフロント実現の夢

「乙川リバーフロント地区整備計画」の推進によって、乙川の水辺空間と連携した市民の「いいいの場」を活かした将来の街づくりへの期待が高まっています。



1 (仮称)乙川人道橋完成イメージ 2 平成27年12月に初開催した「乙川泰平の折りプロジェクト」での乙川ライトアップの様子

家康公縁の寺社

六所神社(↓地図E)

岡崎城で生誕した郷土の英雄「徳川家康公」の産土神として、江戸幕府の厚い保護を受けていました。社殿(本殿・幣殿・拝殿)は権現造の絢爛豪華な建物として、徳川家光公の命で1634年(寛永11)から3年かけて造営されたものです。本殿・幣殿・拝殿・神供所・楼門は昭和10年に「国宝」の指定を受けていましたが、昭和25年の文化財保護法の制定により「重要文化財」に指定されました。

神社の本殿は「南か東向き」が一般的ですが、六所神社は、岡崎城の天守閣からいつでもお参りできるようにと「西北西」の方角を向いています。



是字寺(龍海院)(↓地図F)

「満珠山龍海院」は、別名「是(ぜ)の字寺」と呼ばれています。1530年(享禄3)徳川家康公の祖父、松平清康公が「是」の字を左手に握るという初夢を見て、「これは吉夢で『是』の字は日の下の人と読めるから子孫が天下を取るという意味である」と占った僧の話喜び、清康公がその僧のためにこの寺を建てたと伝えられています。一般的に南に向かって建てられる本堂ですが、龍海院の本堂は、岡崎城に背を向けられないため、忌み嫌われる北に向かって建てられています。